

MAGIC SEEN



**オーブナース**

<日本語版>

First edition published by Magicseen 2024

ISBN 978-1-9162692-6-2

©Text copyright Magicseen Magazine

Collated, edited and designed by Phil Shaw

## **Exclusive Japanese Edition**

This Japanese Translation is authorized  
by Phil Shaw

# 「オーブナース」

## <日本語版>

*この日本語版は Phil Shaw より*

*日本語版としての権利を購入して*

*(有) フェザータッチ MAGIC にて発行するものです。*

*(2024/5/17)*

**翻訳・編集：【フェザータッチ MAGIC】**

# 序文

ゲイリー・ジョーンズ

Magicseenのフィル・ショーから、この素晴らしい本に序文を書いてほしいと頼まれたとき、私は本当に嬉しく、大変光栄だと答えた。

オープニング・エフェクトに関する本というアイデアは、私にとってとても大切なものだ。この仕事に携わって35年になるが、オープニングがいかに重要か、いくら強調してもしきれない。

マジシャンは一人ひとり違うし、何が良いオープニング・エフェクトとなるべきかについても様々な意見があることは承知しているが、良い第一印象を与えるチャンスは二度とないということは、誰もが認めるところだろう。

この本では、世界最高のマジシャンたちが、ショーやセットのオープニングに使うエフェクトを紹介しています。マジシャンの中には、演じるショーの種類によって、複数のオープニングを使い分ける人もいます。私もその一人です。私のオープニングは、例えばディナーの前のドリンク・レセプションで使うオープニングと、テーブルで使うオープニングでは全く違います。

どのオープナーを使うにしても、観客にあなた自身とあなたの個性を確立させることが非常に重要だ。

私個人としては、クイックタイプのオープナーが好きだ。これはもちろん私のスタイルに合っている。他のマジシャンは、ゆっくりと作り上げるのが好きだったり、コメディ路線に行くかもしれませんが、オープニングで観客との信頼関係を築きさえすれば、あとはうまくついてくるものです。

そのため、自分の演技を作り上げる際には、自分のスタイルに合ったオープニングを選ぶだけでなく、観客がショーの間、何を見ることができかを感じさせるようなオープニングを選ぶことが非常に重要である。

カードとコインを用意して、この素晴らしいコレクションに収録されている素晴らしいエフェクトのいくつかを学んでみよう。

ゲイリー・ジョーンズ MIMC 2024年2月

# 目次

序文：ゲイリー・ジョーンズ	3
それほど酔っていない/ ボリス・ワイルド	6
3C/ファイヤーコインズ / クリス・コングリーブ	10
ウイルス / ジョン・ガスタフェロ	12
カサブランカ / マット・ベイカー	17
ゴールドカップ・コン / カール・ロイル	22
最重要 / イアン・モラン	28
サイキック・ペンデュラム / ルカ・ヴォルペ	34
コンテンダー / リアム・モンティア	38
チップレス / R. ポール・ウィルソン	40
コレンドン・エース / ポール・ゴードン	44
ショット・グラス・オープナー / ローレンス・ハス	46
ギャリーズ・オープナー / ギャリー・ジョーンズ	50
救急箱 / キャメロン・フランシス	51
あなたが選ばなかったもの / ショーン・カーペンター	55
チャイニーズ・チャンス / スティーブ・クック	58
迷ったら手相を読め / ライアン・シュルツ	63
ノート・パーフェクト / ジャスパー・ブレイクリー	67
THEオープナー / デビッド・リーガル	69
混乱しないで / ウッディ・アラゴン	70
オビワン・コイノビ / マイケル・オブライエン	74
バウンス/バウンスなしオープナー / チャド・ロング	78
空手 / ラファエル・ベナター	80
ボクサー / ケブ・グレグソン	83

3, 2, 1 ダンベリー / ダニエル・チャード	90
クロス2 / ピーター・ペリケアン	94
ザ・ベット / クリスチャン・グレイス	96
プロ・インビジブル・デック / スティーブ・デラ	101
コインスピンのプロダクション / ウェイン・フォックス	108
想像力の強さ / フレイザー・パーカー	110
ビジネスクリップド / スティーブ・ゴア	114
私を選んで / ポール・ブルック	117
ヒーローに会えない / ピーター・ナルディ	123
エキフィンク / フィル・スミス	125
ダブルドット / エティエンヌ・プラディエ	127
忘れないで / ショーン・マクリー	129
フルード・オープナー / アンドリュー・ディーン	136
タイムバニッシュ / アラン・ロリスン	139
昨日の夢 / ハリー・ロブソン	140
崇高な影響力の進化 / マイケル・マレー	143
ターボカップ / マーク・ジェームズ	149
キャップタップ・サトルティ / ダニー・ゴールドスミス	154
未来への窓 / ヘンリー・エヴァンス	157

# それほど酔っていない

ボリス・ワイルド

「ノット・ザット・ドラック」は楽しいオープナーです。いつも観客を驚かせ、少し戸惑わせます。あなたは、観客が思っているようなことはしていない（そして、観客が思っているような人ではない）ことを見せます。素早く、ビジュアルに、面白く、4エースのルーティンの導入に最適です。

## 現象

マジシャンは古典的な方法でカードをシャッフルし始めますが、その前にとっても重要なことを主張します。

「決してシャッフルの途中で止めないでください。マジシャンはその通りに、デッキの4分の1ほど進んだところで、カードの一部を反転させ、表向きのカードに裏向きのカードをシャッフルします。

「もし、うっかりやってしまって気づいたら、すぐに直してください」。

しかし、彼は片方のポケットを裏返してシャッフルを続け、事態をさらに悪化させた。そのため、彼は両方のポケットをひっくり返してシャッフルを完了し、カードがあちこちに混ざってしまった。「もしこのようなシャッフルをする人を見かけたら、ただの酔っ払いや不注意だと思わないでください。」マジシャンはデッキを広げ、中央の4枚の表向きのカード（エース）を除いて、全てのカードが裏向きになっていることを見せます！

## セットアップ

4枚のエースをデッキのトップに置く（カルの扱いに長けていれば、演技中にこっそりそこに置くこともできる）。

## パフォーマンス

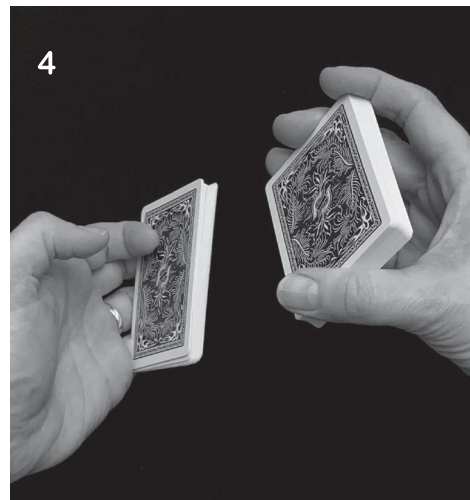
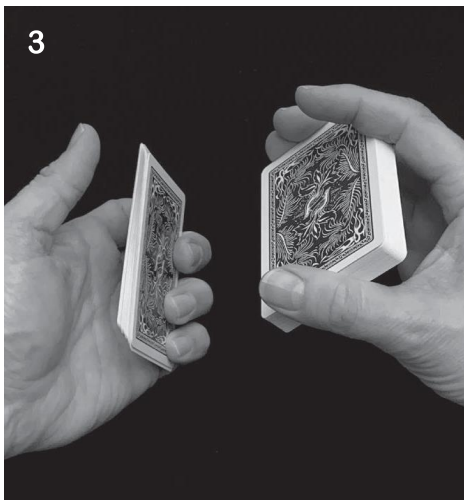
デッキのフェイスを観客に向けてスプレッドし、デッキのトップにある4枚のエースを見せずに、異なるカードであること、よくシャッフルされていることを示します。カードを揃えて、フェイスを観客に向けて右手から左手へオーバーハンドシャッフルを始めます。カードの4分の1程度までシャッフルを続けます（図1）。



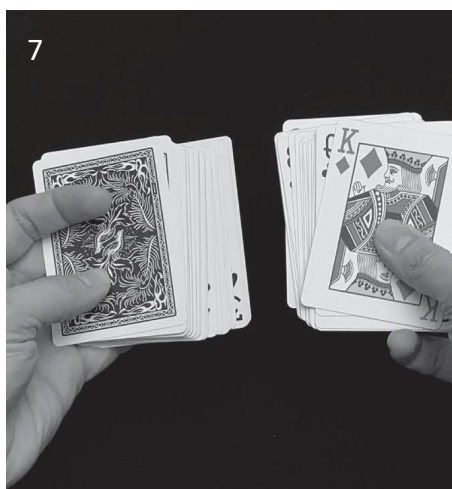
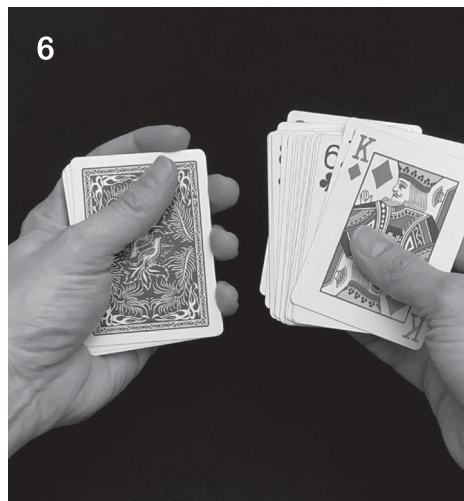
そこで止めて、わざと右手のポケットをひっくり返し、観客の方に返します。不器用に4枚のエースを左手のカードの表にオーバーハンドシャッフルし、1枚ずつ剥がしていきます。一度や二度、剥がし損ねたふりをする、と、4枚以上のカードを剥がしたように見せかけることができます（図2）。

ここで立ち止まって、まるで何かがひどく間違っていることに気づいたかのように、両方のポケットを見てください。その状態で、左側のポケット（つまり間違った方）をひっくり返し、反対側の裏を見せます（図3と図4）。

右手から左手のポケットにカードをオーバーハンドシャッフルし、明らかに状況を悪化させながら、最後の20枚か25枚になるまで続けます（図5）。



止まって両方のポケットをもう一度見て、「待つて・・・。もしかしたら、もう一方の方かもしれない」と言い、右手の指先でポケットをひっくり返します。カードフェイスが観客に向けた状態です（図6）。



——以下省略——



# 3C/ファイヤーコインズ

クリス・コングリーブ

ゲイリー・ジョーンズには3Cというルーティンがある。ファイヤー、ビジュアルマジック、ユーモアがあり、私はファンです。

私はそれを多少変更した。主な変更点は、私のルーティンをテーブルなしでウォークアラウンドで行えるようにしたことだ。

## 現象

3枚のコインが現れ、本当に魔法のように消える！

## 方法

——以下省略——

# ウイルス

ジョン・ガスタフェロ

「*Virus* : ウイルス」は私が最もよく使うオープニングです。マジック・キャッスルのクローズアップでも、散歩やパーラーでのパフォーマンスでも使っている。

何が良いオープニングなのか？ 楽しく、ビジュアルに、観客を引き込む親近感のあるフックを持っている。あなたはデッキの中の見知らぬカード1枚から始めますが、このカードがすべての重要な役割を果たします。このカードはプレゼンに織り込まれるだけでなく、いくつかの魔法のような瞬間を提供するのに役立ちます。一番良いのは、現象が終わった後、このカードは自然

かつオープンにしまい込まれ、通常のデッキを残して演技を続けることができることです。

## 現象

「ウィルス」は、デッキが裏向きから始まり・・・全てブランクになり・・・プリントされた表向きになる。

これは私の現象「トラブルシューター」(Brainstorm, 2003)のアップデートです。オリジナルの現象では、1枚の裏向きの変わったカードが使われていました。裏面に“Virus”の文字を追加し、表面をブランクにすることで、この1度の改良でマジックが大幅に向上しました。

カードは1枚のままですが、ブランク・デッキのディスプレイや、デッキの中にウィルスがあることを示す意外なキッカーなど、いくつかの新しい魔法のような瞬間が生まれます。また、余分なカードが演出に織り込まれているため、カードの存在を隠す必要がありません。

私の『Truth in Advertising』(One Degree, 2010年)という現象と同様、『Virus』も広く親近感を抱かせるフックを特徴としている。ファイルを失ったり、コンピューターウイルスに感染したりする恐怖は、ほとんどの人が共感できるものです。現象中に自発的な対話の機会をお見逃しなく。

## セットアップ



——以下省略——